過去の【今月のコラム】

2021年１２月:コラム

2021年度　第2回オンライン研修会のご報告

皆さま、2021年今年最後のオンライン研修会は「STと事業所運営を考える研修会」でした。そしてあっと今に12月に入り、いよいよ今年も残すところあと数日となっておりますが、いかがお過ごしでしょうか?

これまでSTが働く場所は主に医療現場だった時代から、この数年間でその働く場所、そして働き方が大きく変わってきていると感じる昨今。

アンケートからも医療機関勤務の方と児童発達支援事業所や放課後等児童デイサービスで勤務されている方があまり変わらない人数になっていることも知ることが出来ました。また、“フリーランス”として働いている方も増えています。

今回の研修会では「事業所運営」をされている先生方のシンポジウムでしたので、今、その方向性で考えている皆さまだけでなく、これから子ども分野のSTとしてどのように地域社会に根付き、且つ貢献できるか、という視点でもとても参考になる内容だったと感じました。

横山真司先生の「こどものミカタNPO法人オルケスタ」の取り組みに、参加者の皆さま同様、とても感動しました。

STのことを知ってもらうための工夫の細やかさを感じ、また、その発想を楽しみながら取り組まれているのだな...と感じました。
さらに、横山先生は具体的に利益について隠すことなく公表して下さり、運営についてのシビアな面も把握することができ、とても参考になりました。

「ことばの発達相談室」主宰の福永晴香先生からは、開業間もないからこその、新鮮な情報を頂けました。開業までどのような手続きがあり、共に働いていくためのスタッフにどのような人材が必要かを考えられ、地域に根差していくための工夫等も知ることが出来ました。

印象的だったことは、まだ幼いお子さまをお迎えに行ったときのエピソード。家事育児を毎日こなしながらも、夢の実現に向け、ご夫婦で協力し合っている姿。運営委員会のメンバーの福永先生!そして、奥様(福永晴香先生)!本当に素晴らしい家族愛をシェアしていただきありがとうございます!!

シンポジウム、ラストは今や知る人ぞ知る!Instagramでの発信も有名な「ことばの相談室ことり」の寺田奈々先生。これまで誰もやったことのないスタイルで「STって、こんなお仕事です」を発信されています。

多くの方々へ分かりやすく説明されていることは勿論、オリジナルの商品も販売されておられ、同じSTとしても「こういうのが欲しかった!」と購入されている皆さまもいらっしゃいますよね!アンケートにも「情報発信力はただただ尊敬です!」とありました。
また、個人経営だからこその利点や、金額設定なども教えて頂けるなど、とても参考になる内容でした。

中川代表の「多様なはたらき方で広げたいSTの未来」講演は、まさに「温故知新」!

言語聴覚士が国家試験・国家資格に至るまでの道のりについて、リアルに当時のお話を共有して頂けた今回の内容に「あの時代、錯綜している状況がわかった」「元々のSTの姿に」「先生の講演を胸に、明日から頑張っていこうと思います!」など。

参加者の皆さまそれぞれに感動ポイントがあるようでした!私自身も、中川代表のSTとしての、そして、子ども達のことを思う〆譲れない信念ϵについても知ることが出来たように思います。

そして「よもやま話会的な取り組みをこの会でもやっていけたらいいのかも知れませんね」とおっしゃられた代表の一言に、すぐに反応された参加者の皆さまがコメント欄にアイディアを投稿されていました。

やはり、一人よりも二人、三人と、仲間と共にSTの認知度を高めることについて考え、行動に移していくことが求められるという話題から「STデリバリーみたいな!?」というワードが誕生した瞬間、思わずイイね!と声にした私でした。

皆さまから頂戴した今回のアンケートでは

・病院で出来ることに限界を感じていたので独立に向けて考えていた。
・家族・生業としてもSTの仕事を捉える視点が新鮮だった。
・地域に根差した子育て支援が印象に残った。
・小児STの需要がたくさんあることを実感できた。
・STはどの成長時期でもできることはある。
・やる気 志 地域貢献。
・ドタバタ劇はずっと続きます(笑)そしてずっと続く方が良いと思う!

など。

本当にたくさんのご感想がありました。ありがとうございます。
(もしかしたら、感想だけを投稿しても良いのではないかしらと思う私)。

最後に、今回の研修会の冒頭で「中川代表厚生労働大臣賞」の受賞発表。この賞を「言語聴覚士」としては「初!」ということでした!!祝!!

歴史に残る偉業を成し遂げられ中川代表。「後輩」の私たちに沢山の学びや気づきのチャンスを与え続けられていることに、ただただ感謝しかありません。

過去は今に、そして、未来へも続く時間軸に生きながら「子どもST」として、多様な私達でいいのかな...。そして集い語り合える場があれば心強いよね!という気持ちで今年最後のオンライン研修会を終えられたかな...と、思っています。

参加された皆さまとの貴重なお時間、学びに感謝いたします!

追伸:
「これで会うことは無いので...」と、今生の別れ??と思わすような自分の発言に自分でびっくりして慌てふためいた終わり方...改めて、大変失礼いたしました。そして、私が意図したのは「今年は“子どもSTの会”としてのオンライン開催はないので皆さまとお会いできない」でした。
2022年の2月頃開催予定の「オンライン語ろう会」で再会できる日を楽しみにしております。
皆さま、どうぞ良いお年をお迎えください☆

2021年12月

子どもの発達支援を考えるSTの会運営委員 研修会実行委員

2021年１１月:コラム

２０２１年度　第１回オンライン研修会のご報告

第１回テーマ「STと学校との連携を考える研修会」が無事に終了いたしまた。

代表の中川信子先生を始め、講師の増本利信先生、シンポジストの先生方、そして、ご参加いただきました皆様からのご質問等、可能な限り網羅していきたい!との思いもあり、予定時間を超えることとなってしまいました。
スケジュール変更があったため、最後までご参加できなかった方もいらっしゃったかもしれません。皆様の貴重なお時間を頂きましたこと感謝申し上げます。

今回の研修会テーマにおいて、事前にご質問等頂いており、このテーマにおける関心があると同時に「困り感」を抱かれておられる先生方が多くいらっしゃるのだと知りました。その根底に、まだまだ「STの認知度が低いこと」があるのだと、改めて痛感した次第です。
それでも、試行錯誤の連続から、具体的な「行動へ!」と動きがある今なんだ!!!ということも感じられ、諦めないことの大切さを痛感した私です。

シンポジストの方々からの報告。
まず、藤野先生からは東京都では特別支援教育部が設置され、その後「学校と協同するSTのための講座」を開催されたり、参加者アンケートから具体的なテーマを決めた勉強会をされたりと、具体的に「学校現場での連携」の姿を知ることが出来ました。
鹿児島の西野先生からは「訪問先から依頼がある巡回指導」と、保護者様からの依頼による「保育所等訪問支援事業」における違いの大きさを理解することにもなったと思います。それは、「子どもの成長・発達を願う保護者の権利として提供されるサービス」、この権利を大事に扱うことが子に関わる全員にとって良い流れになるのだと・・・共有できればと思いました。
北村先生からは報告とディスカッションを通じて、現場において必要とされるSTとして「見える化していくこと」の必要かつ重要性をスライドからも分かりやすく知ることが出来、そして「最後の砦になる覚悟」。この「覚悟」は私も常に持っていることばでもありとても感動しました。
原先生からは「STはどうしても摂食指導と構音障害を担当する人というイメージがある」というシビアな現実もありつつ、だらかこそ、STの認知度を上げるためにも、教員と専門家の間をつなぐ「特別支援教育コーディネーター」などを仲介として現場の方へしっかりとつないでもらう必要性があると知りました。確かに、つい専門用語が出てしまった時に、コーディネーターがいると教員の方へ落とし込みができ、子ども達との関わり方において、学びは深まると私も思いました。

講演会、講師の増本先生が研修前にまさかの「ハーフ・ラン」参加されていたとのことでとても驚いた私です。資料の中身もパワフルで、そして分かりやすくあっという間の講演会でした!!!
誰もが「わかりにくい!」と感じるポイントを文字や絵・写真で提示されておられる資料から、常に垣根なく誰でも弱音を吐いていい・そして学び合って共有していけばなんとかなるよ!という優しさを感じました。そして、「予定調和的な活動より、多少ぶつかっても何か化学反応的なことがあると信じていく!」という増本先生の熱意、情熱が融合された「場」を先生ご自身が作られておられていることにとても素敵だなぁと感動しました。

　最後に中川代表より「学校という異文化において私たちは・・・お役に立つことはありますか?こんなことが出来ますが・・・と提示して選んでもらう。増本先生の言葉にあった“信じてくじけず”でやっていくことが本当に大事。これからは考えることから、少し行動へ!ということが必要なんじゃないかな?と」という言葉がありました。

　参加された皆様一人一人の心に残るメッセージが、きっとあったと思います。私もたくさん受け取りました!!それぞれの立場でできることとそうではないことの見極めもしつつ、それでも諦めず認知を広める一歩をしていこう!と思える研修会と感じました。

ご参加された皆様からのアンケートでも
・学校での特別支援教育の内容が良く分かった
・学校内外の仕組みや支援の方法・種類を学べた
・日頃の孤軍奮闘の方向性が間違ってはいなさそうとホッとした
・どう働きかけるのがいいのかが分かった
・「敵を増やさず味方を作る」とうい視点が得られた
・専門性を振りかざすのではなく上手にコミュニケーションを教員と図るのが大切
・今の半歩先をみながら関わりを考える余裕がコーディネーターには必要と思った
・子ども達の成長という共通の目標があるのでお互いに協力がより進めばいいなと思った
など、たくさんのご感想を頂きました。本当にありがとうございます。
　開催「時間」においてはやや長時間に感じられたとある一方で、もっと少人数で話す時間もあれば良かった・・・など。皆さまから頂いたご意見は今後の研修会でしっかりと活かしていきたいと思います。
　日々のお仕事でお忙しい中、増本利信先生、中川信子代表、シンポジストの先生そして、会員の皆様、研修会へのご参加及び、アンケートへのご協力いただき、誠にありがとうございました。

それではまた今月（！！）
１１月２８日(日)の第２回オンライン研修会へのご参加をお待ちしております。
(第２回オンライン研修会申込みは会員グループウェアからできます)

２０２１年１１月
子どもの発達支援を考えるSTの会運営委員　研修会実行委員

2021年１０月:コマーシャル

会報１２号刊行のご報告

今年も無事刊行の報告ができることを嬉しく思っております。

例年ですと、会報誌では前年度に開催された『子どもの発達支援を考えるSTの会』全国研修会の記録を中心に記事を構成しています。ところがご承知の通り、2020年は新型コロナウィルス感染拡大があり、全国研修会の現地開催は見送られました。

そのような状況下、「このコロナ禍でも各地で奮闘している子どもSTの姿を共有したい」という、研修委員の皆さんの思いとご尽力により、オンライン研修会が開催されました。そして、その模様を会報12号でご報告できることになりました。

今12号のテーマはずばり、「コロナ禍と子どもST　学びを止めずに」です。
第1章では、上記オンライン研修会での講演及び報告をまとめています。第2章は「教育講座・当事者の視点」と題し、前半は、STが共に子どもの発達支援に関わる現場である学校組織あるいは専門職である作業療法士という立場からご寄稿をいただきました。そして後半は、今回も当事者の立場からのご発言をいただいています。第2章は、この会が、STと支援を必要とするお子さんという狭い見方でなく、社会生活の中での『発達支援を考える』チームの一員としての立場を常に大切にしたいという思いのもとに構成されています。

第3章は「会員より」。今回は特に、言語聴覚士という国家資格ができる以前よりこの専門職として子どもたちの支援に携わっていらっしゃった先輩の皆さまにご寄稿をお願いしました。お読みいただければ、どの方々も、自分の取り組みに悩み、課題を見つけさらに次の学び・実践へと歩みを進められてきていることがお分かりいただけると思います。現場で悩む現役の支援者には大きな励みとなり、また刺激となることでしょう。

さて、2020年は会にとって寂しい出来事がありました。会の創設者のお一人であり、以来絶えず会の活動を支えてきてくださったエスコアール社鈴木弘二さんとのお別れです。鈴木弘二さんは何回も深刻な病から奇跡的な回復をされ、今回もまたお元気な姿に再会できると会員のだれもが信じていました。ところが8月に届いたのは悲しいお報せでした。今も弘二さんの笑顔が脳裏に焼き付いています。この会報の追悼記事を通して、弘二さんとの日々を思い出しながらあらためて感謝の思いをお伝えしたいと思います。

この会報編集作業ですが、会報担当運営委員、及び編集作業の手伝いに自ら手を挙げてくださった会員からなる編集委員会メンバーの手作業により成り立っています。
会の活動すべてに言えることですが、会報編集も「できる人が、できるときに、できることを」というモットーのもとで取り組んでいます。

今回このコラムを書かせていただくにあたり、あらためて思いを寄せたのがこの会の名称です。『子どもの発達支援を考えるSTの会』・・・『支援の』でもなく『支援する』でもなく『支援を考える』。常に考えている会の会員であることにあらためて重みと誇りを感じながら、会報12号を皆さんにお届けしたいと思っています。

どうぞお手に取って、まずは一番目を引かれたところからお読みになってください。

なお、会員外の方へも販売を行っております。上部のバナーからご覧ください。

２０２１年10月
子どもの発達支援を考えるSTの会運営委員　会報担当

2021年9月:コマーシャル

「会員のグループウェア掲示板から」

今月は趣向を変えて会員の情報交換の場である、グループウェアの様子を少しだけお伝えしようと思います。
現在、数日に数件の投稿があります。内容はメーリングリストを使っていたときと同様に、研修会案内、書籍、サイト紹介、求人情報、転居や支援方法についての相談などが主なものになっています。研修会案内や書籍紹介は、このHPのお知らせ覧でも紹介していますので、ご興味のある方はそちらをご覧ください。
さて、上記に加え、最近新しい試みを始めました。以前からもニーズがあった、「仮想事例検討」です。1000人も会員がいるとなかなか自分の相談がしにくいだろうということで、架空の事例を出してそれを検討するというものです。
今回は、初めてなので、HP担当で1人8役をして物語のように進めることにしました。

相談内容などを少しだけ・・・ある特別支援学校でのケース会議場面です。

コーディネーター
「今日は第1回目なので、様子を共有していくことを目的にします。時間は1時間以内　で終わりましょう。」
まずは担任の先生から、状況の説明をお願いします。」

担任
「よろしくお願いします。うちのクラス、中学部1年1組の太郎さんの件です。
太郎さんは、自閉傾向、単語での発話はあります。
面白い遊びでも嫌な物でも物を投げたりる、ばらまいてしまったりしますので困っています。
「ダメでしょう。」と注意しても自分で「ナゲマセン」と言いながらまた投げます。

お母さまからのお話では、家庭でも同じような感じがあるようで、机に出された物をすぐにまき散らすので何も出来なくなってしまうからそれを止めさせたいという思いをもってらっしゃいます。

教室で物をばらまいたら、「自分で拾って」の代わりにそれが入っていた容れ物を床に置いて、「どっちが早く入れられるかな、競争だよ」などゲームにすれば、自分で拾い集めたりすることはできます。
今後どうしたらいいか相談したいのでH先生にお願いしました。」・・・

学校内でのケース会議なので、他に部主事、副担任、生徒指導担当、教育相談担当など　も参加して支援方法を模索中です。

会員の方はぜひグループウェアにアクセスしてご覧ください。
非会員の方で興味のある方、入会をお待ちしております。

２０２１年９月 子どもの発達支援を考えるSTの会 代表委員

2021年７・８月:お知らせ

「2021年度 子どもSTの会 オンライン研修会 第一報」

今回は、**会員さん向けのお知らせ**になります。ご了承ください。

今年度は10月31日(日)と11月28日に研修委員が中心となりオンライン研修会を行うことになり運営委員で企画検討してきました。10月のテーマを「STと学校教育の連携を考える研修会」、11月のテーマを「STと事業所運営を考える研修会」として企画進行中です。

研修概要が決まりましたので第一報をお伝えさせていただきます。

◆第１回「STと学校教育の連携を考える研修会」

日時　10月31日(日)13:30-17:00 (申し込みは9月1日に開始を予定)
演題　「互いに尊重しあえる、より良い連携のために」
講師　増本 利信 先生(九州ルーテル学院大学 人文学部 心理臨床学科 准教授)
公認心理師 特別支援教育士SV 臨床発達心理士 日本LD学会理事
ビジョントレーニングインストラクター

★当日の予定★
STと学校教育の連携を考えるシンポジウム(4名)
講演：「互いに尊重しあえる、より良い連携のために」 増本 利信 先生

教育との関わりについてはSTが学校に勤務している以外に、外部専門家として、または専門家チームとして学校巡回等で訪問する場合、障害福祉領域では保育所等訪問支援や家庭連携加算といったサービスを通じてなど連携にもさまざまな経路があります。この10月31日のオンライン研修では会員さんから「外部専門家等として」「保育所等訪問支援事業などの福祉領域から」「巡回相談の立場から」「現役の教員の立場から」など学校育領域と携わっている会員さんから話題提供をしていただき学校教育との連携について理解を深めていきたいと考えています。

また、講演では九州ルーテル学院大学の増本准先生から学校の連携について講演を企画しております。増本先生は小学校教員として、通常学級や通級指導教室で担任をされ2020年より九州ルーテル学院大学 人文学部 心理臨床学科 准教授として大学に所属されています。またLD学会では、理事なども務められ学校教育について熟知されておられる先生です。今回は「専門職と学校との連携について」をテーマにご講演をお願いしています。

◆第２回「STと事業所運営を考える研修会」

テーマを「STと事業所運営を考える研修会」についてオンライン研修会を企画しています。
日時　11月28日(日)13:30-16:30(申し込みは10月1日に開始予定)
演題　「多様なはたらき方で広げたいSTの未来(仮)」
講師　中川 信子 代表(子どもの発達支援を考えるSTの会)

★当日の予定★
　STと事業所運営を考える研修会シンポジウム(4名)
　講演：「多様なはたらき方で広げたいSTの未来(仮)」中川 信子 代表

　児童発達支援や放課後等デイを運営する言語聴覚士等の専門職が増えてきています。雇われる側から雇用側へまたは支援サービスを管理する側に変わることも私達のキャリアから考えると珍しいことではなくなってきました。現在、管理者等の役職がある方は地域の実情を踏まえながら事業所運営されていることだと思います。この11月28日のオンライン研修については事業所運営に携わる会員の方から事業所運営に関わる話題提供をしていただく予定です。また中川代表にはSTのキャリアやSTのはたらき方についてお話をしていただく予定となっております。

　たくさんの方にご参加していただけるように準備を進めています。
　どうぞよろしくお願いいします。

子どもの発達支援を考えるSTの会
研修委員 赤壁 省吾
　akakabe@kodomost.jp

今後の詳細については、公式サイトや会員情報交換の場であるグループウェア上で提供していく予定です。
どうぞよろしくお願いいたします。

また、会員外の方でこれを機会に入会をお考えの方は、このお知らせのすぐ上にある、「入会案内、入会申込はこちらから」をご覧ください。

2021年7月
子どもの発達支援を考えるSTの会 研修委員

2021年６月:コラム

「はらぺこあおむし」

今月は更新が遅れてしまい、申し訳ありませんでした。
子どもの頃は一日がとても長かったのに、どうして大人になるとこんなにも月日の流れが速くなるんでしょうね・・・。
今年もあっという間に半分が終わりそうですが、著名な方の訃報が何人も伝わってきました。
俳優の田中邦衛さん、田村正和さん、どちらも日本を代表する名優です。また、プロフェッショナルを貫いた方々でした。
今の時代は昭和とは違うといわれるかもしれませんが、昭和生まれの私も共感できる部分が多くあります。

子どもにかかわっている方々にとっては、エリック・カールさんの訃報も残念なお知らせだったと思います。代表作「はらぺこあおむし」は、子どもにかかわっている方なら一度は手にしたことがあるでしょうし、表紙のイラストは、日本の中でも老若男女合わせて、見たことがない人の方が少ないだろうと思います。

私が「はらぺこあおむし」に最初に出会ったのは、何十年も前の大学時代。虫嫌いだった私は、当時、あの表紙のイラストが苦手で。あの嫌いな芋虫がしかも独特の絵で描かれているのが苦手で、手に取るのも、ましてや中身を見るなんてできなかったのを覚えています。
次の大きな出会いは、ことばの教室や、今で言う特別支援学校の小学部で働いていたときの授業場面。
あの頃は、絵本を通して何かを教えないといけない!という使命感で、曜日や数字、物の名前などを一生懸命に子どもたちに伝えていました。(多分、ことばの教室や特別支援学校小学部あるあるではないかと思います。)

そして次の出会いは、自分の子どもが2~3歳ぐらいだったでしょうか。保育園で借りてきて「よんで!」と言ってきたとき。ページをめくる度、「あはは」という笑い声や、最後の蝶になる場面で「うわー」という感激の声。何度も何度も読まされましたが、毎回毎回、同じリアクション。特に最後の場面での「うわー」は本当に毎回感激しているようでした。

今にして思えばですが、子どもの感性と大人の感性はやっぱり違うんだなあということ。
子どもが同じ本を何度も読んで欲しいと言ってきたときは、また同じかと思っても読んであげるのがよい。というのは今でこそ当たり前になっていますが、独特のイラストや構図、書いてある文、しかけ、などなど毎回違った視点で楽しんでいるんだなあと。
しかも、子どもたちも私と同じで虫嫌いだったんですが。
そう考えると、最近みんなが当たり前に使っている「子どもに寄り添う」ということが実は結構難しいことなんだろうな。と思う日々です。
BBCニュースでは、「カール氏の遺族は、『月の光の中で、輝く星をしっかりつかみ、虹の画家はいま夜空を旅している』
と伝えた。」と報道していますが、本当に楽しげに旅している姿が目に浮かびそうです。
ご冥福をお祈りすると共に、氏の思いを大切に次の世代に伝えていきたいと改めて思いました。

2021年6月
子どもの発達支援を考えるSTの会 代表委員

2021年5月:これから入会を考えていらっしゃる方へ(ご案内)

新年度が始まり、ほっと一息つくゴールデンウイークも終わりました。いよいよこれからが本番!という方も多いかと思います。当会も4月から多くの方に興味をもっていただき、おかげさまで新規入会の申込も例年よりも増えております。

そこで今月は、これから入会をお考えの方へ少しご案内をさせていただきます。

まず、今年度からシステムが2つ変わりました。

1つは、年会費の徴収がクレジットカードもしくは銀行口座からの自動引き落としになったことです。

もう1つは情報交換の場がメールからグループウェア(ネット上の多機能掲示板)に変わったことです。グループウェアでは、メールと異なり自分で掲示板を見に行かなければ情報が入ってきません。会員さまの積極性が大切になっております。

システム変更以外で以前から気になっていることがございます。入会申込フォームには「入会してからやってみたいこと、学びたいこと」をご記入いただいておりますが、その中で、「研修会の情報が欲しい」「書籍や教材、事例が知りたい」といった内容がしばしばございます。

当会は、会員かどうかにかかわらず、子ども分野のSTの質や量を高めることを目的としていますので、会員外の方へもグループウェアで紹介された情報はHPにて提供を行っております。

詳しくは、上部のタブの「お知らせ」内 https://www.kodomost.jp/info.html をご覧ください。もしかしたら入会しなくても上記のページでニーズが満たされるかも知れません。

では会員になるメリットは?

例えば、研修会や書籍案内は、主催者や著者からの紹介、より詳細な内容なども加えて紹介されています。いわゆる「生の声」が聞けます。また、情報提供者の方たちへ直接質問もできます。

その他は、何気ない日常の中で感じた子どもへの関わり方のヒント、普段誰にも聞けないような質問を匿名で聞くこともできます。

入会してみたけど思っていたのと違う。となってはお互いに残念なことになりますので、ご不安な方はこのページの一番下にある「入会等、会に関するお問合せ」から遠慮なくお尋ね下さい。

2021年5月

子どもの発達支援を考えるSTの会　代表委員

２０２１年4月：コラム

4月。桜の便りとともにやってくる春。いつもなら心おどるはずの季節ですが、1年前の春、私たちは、えたいのしれない「コロナ」という見えない敵におびえ、身構え、やり場のない怒りと不安にさいなまれていました。

突然の小学校の一斉休校、保育園・幼稚園の登園自粛などもあり、子育て中の保護者はとても大変な思いをしました。そんな中でも、そんな中だからこそ開き続けた児童発達支援事業所や放課後等デイサービス、学童保育などが沢山ありました。また、医療従事者や保健所職員の献身的な働きも多く報道されました。

不要不急の外出自粛を守るステイホーム生活の中から、外で、いろいろなことを持続させている方たちに「ありがとうございます」「おつかれさまです」と頭をさげる日々でした。

今年も、いつもの年のように、春がめぐってきました。北国もやっと雪から解放され、太陽の恵みに接することができるようになります。

今も、コロナは相変わらずまん延を止める気配はありませんが、その正体は1年前に比べるとだいぶ輪郭が見えて来ました。

一方的におびえ、翻弄されるだけではなく、「にもかかわらず」乗り越える、または共存する道も少しずつ見えてきました。

オンラインでの会議や講演会・シンポジウム開催は日常のことになりました。

私たち「子どもの発達支援を考えるSTの会」の一番の楽しみである全国研修会は2020年、2021年共に開催を中止しましたが、それに替わるものとしてオンラインでの研修会や「語ろう会」などが企画されました。遠隔地にお住まいだったり、子育て中だったりして、通常だったら参加がかなわなかったであろう方たちが画面上に姿を見せて下さるなど、うれしい産物もありました。参加者同士の出会いから新しい芽生えもあるようです。

私たちの会は、長いあいだ意見や情報の交換をメーリングリストによって行ってきました。会設立の2002年には「メーリングリストとは何か?」の説明から始めなければなりませんでしたが、今や、種々のSNSが発達し、一方1000人を越える会員が安全に参加できる「ひろば」としては、メーリングリスト方式の維持が難しくなってきました。

そこで、この4月からあらたにグループウェアという方式に転換することになりました。
今までは自動的にメールが配信されました。それが助かるという方も、いらない情報まで配信されるのが迷惑という方もありました。今後は、自らアクセスしないと、情報に接することができず、会員相互のつながり感が薄くなることが予想されます。この会のあり方も変わって行くことでしょう。

4月。うしろに潜むコロナの影も気になりますが、この1年で学んだ技術的面での蓄積を糧に、人とのつながりは何にもまして大事、という確信をもって、次の1年を共にくぐり抜け、明るい方へと進んでいければと思います。

2021年4月
子どもの発達支援を考えるSTの会 代表 中川信子

２０２１年３月：お知らせ

「2021年全国研修会in東京開催中止のお知らせ」

皆さま
このたび、2021年度の全国研修会 現地開催を中止、及び東京での開催を白紙としましたことを報告させていただきます。
2020年春に、「COVID-19感染拡大による事態が落ち着いた折には、皆さまと東京で集うことを楽しみにしている」旨のご挨拶をさせていただいておりました。しかし、1年が経ちました現時点で、ようやく予防ワクチン接種が始まったとは言え、感染状況が収ったとは言えません。先の見えない状況が続いております。

このような状況下での2021年東京開催について、実行委員会の各委員に諮りました。その結果、今年度中も現地開催は控えた方がよい、また一旦東京での開催についても白紙に戻すことが妥当ではないかという意見にまとまりました。その結果は子どもの発達支援を考えるSTの会 運営委員会にて了承され、今回の決定となりました。
以上の決定にしたがい、もともと東京研修会のテーマとして企画、準備してまいりました『臨床と私 －専門職として、人間として－』についても白紙とさせていただきます。

HP上や会報上にても宣伝をさせていただきながら、誠に残念で、また申し訳なく存じます。
しかしながら、現状に鑑み、皆さまのご理解をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

研修会については、会員の方を中心に、今年度も研修委員を中心にオンラインでの企画準備が進んでおります。
状況が許すようになりましたら、現地で顔を合わせた集いがもてますことをこころよりお祈りいたしております。
あらためて、皆さま方、ご自身の健康に十分留意された上で、現在の状況下でのお働きにご専念いただきますように。

2021年3月
子どもの発達支援を考えるSTの会 全国研修会in東京実行委員長

２０２１年2月：コラム

「主体的に・・・」

私の本業は特別支援学校教員です。学校では新型コロナウイルス感染症の影響によって、「GIGAスクール構想」が前倒しとなり全国規模でICT機器の整備が進められています。

ただ、機器を整備しただけでは子どもたちの教育がよくなるわけではなく、教員がICT機器をどう活用するかに関わっていることは言うまでもありません。

過去20年以上、情報機器の整備、活用推進に関わってきました。
その中での経験を書かせていただきます。

例えば大きな研究発表にあたった。とか、文部科学省研究指定校にあたったときなどは、学校全体で活用が高まっていきます。しかし、これらは一過性の物となってしまうことが多々ありました。理由として考えられるのは、機器は日々進歩していくので、新しい機器について行けなくなる。や、活用を推進していた教員が転勤でいなくなった、などが考えられます。

幸い、私の今の勤務校では5年ほど前に校内どこでも無線LANを使えるようにし、3年前に全校児童生徒数よりも多いタブレットPCの整備があり、機器の環境には恵まれていました。そこで方針転換です。やったことは2つ。実際に使う教員が使いやすいような工夫と、使い方を1から10まで全部教えないことです。

使いやすい環境とは、例えば、アプリのインストールは常識の範囲で各教員にドンドン進めてもらう。(もちろんそれをしても大丈夫な仕組みは作った上でです。)カラー印刷など一部の学校ではなかなか自由にできないことをできるだけ制限をなくすなどです。これによって、若い教員がいろいろなアプリ情報を自分で仕入れ、教員同士での情報交流も進みました。

もう1つは、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったです。重度障がいのあるお子さんへのオンライン授業をどう展開するか?今年度どの教員も切実な課題となり、チーム教員の中で話し合いが進みました。ICT機器の利用については、「こんなことはできる?」という相談に乗るだけ。後はひとまず見守りです。

結果的に、ワープロソフトもままならなかったのに、自分で絵本を使ったビデオを作成できるまでになった教員もいます。

オンライン配信では、光の当たり具合、聞き取りやすい話し方、背景の工夫など、改めて教員同士で見直す機会になっていきました。

私の仕事は、ちょっとしたヒントと、必要な機器の予算調達、機器のメンテナンスです。
今年度の取り組みを振り返り、改めて「大人であっても主体的に取り組むことは力になる」ということを実感しました。「単純に教えられたことは忘れやすい。自分で獲得した内容は忘れにくく、応用して広がっていく。」と言うこともです。

子どもSTの会も、4月から始まる新年度から、“メールによる送られてくる情報”から、“グループウェアへ自分からアクセスして取りに行く情報”にシステムが変わります。会員の皆さまの幅広い学びの場となることを期待しているところです。

会員でない方も、興味のある方はぜひ入会をご検討ください。お待ちしております。

2021年2月 子どもの発達支援を考えるSTの会 運営委員 システム担当

２０２１年１月：これから入会を考えてみえる方・現在会員の方へお知らせです。

「２０２１年度から新しい仕組みになります！」

　皆さま、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。
昨年の今頃は、まだ新型コロナウイルス感染症がここまでの事態になろうとは予想してなかった方も多いと思います。
この１年でなんとか集束に迎えるように、予防対策などお気を付けください。
　さて、子どもＳＴの会は、２０２１年度（２０２１年４月）から２つ、新しい仕組みに変わります。
　今回はこの場をお借りして内容を簡単にお知らせをいたします。
　入会をお考えの方もぜひご一読ください。

---

①会費徴収システムが変わります。
　以前から会員さんからのニーズが高かった、クレジットカード決済や銀行口座自動引き落としが導入されます。毎年うっかり振込を忘れていた方も、一度ご登録いただければ次年度から自動的に決済されます。

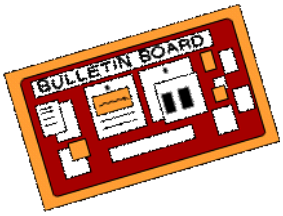
新規入会ご希望の方：
　すでに先行導入しております。入会承認された後、２回のお手続きをお願いします。１度目の手続きは入会金と２０２０年度の会費聴取、２度目の手続きは、２０２１年度以降自動決済のものになります。
現在会員の方：
　２０２１年２月頃に、２０２１年度以降の自動決済のお願いをメールや郵送物でお知らせします。
　お知らせにそってお手続きをお願いします。

なお、自動決済に変更になるため、会を退会される場合は「退会の意思」を示されない限り継続して会費が引き落としになります。ご注意ください。

---

②情報交流の場がメーリングリスト（ＭＬ）からグループウエア（ＧＷ）に変わります。
　現在、会員間の情報交流の場は、ＭＬを中心としています。

　変更する理由は、現在使用しているＭＬサービス会社が提供を終了するためです。



　１０００人を超えるメールを安定して届けられる別のサービス会社がなく、
　また、時代はＰＣからスマートフォンやタブレットになってきていること、
　ＳＮＳの広がりもあります。

　グループウエアとは、言ってみれば「多機能掲示板」です。
投稿内容をカテゴリごとに分けて提供したり、テーマごとの小グループを作成し、
その中で交流を深めたりと、今後活範囲を拡げていけます。
　こちらについては、２０２１年１月より、試験運用をはじめています。

　では、今年、子どもの発達支援を考えるＳＴの会の活動がますます活発になりますように。
上記のお問い合わせ等は　こちらから　遠慮なくお気軽にどうぞ。

２０２１年１月 子どもの発達支援を考えるＳＴの会 運営委員　システム担当